



# アナリストの視点： ロジクールSight 会議室の進化における新たな ステップ

著者 Craig Durr  
リサーチディレクター – Workplace Collaboration |  
The Futurum Group

提携

**logicool**

2023年11月

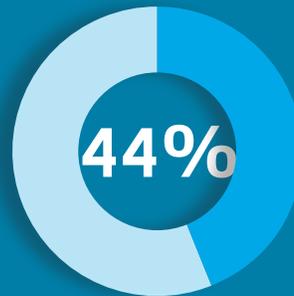
# リモートからの参加者が大人数の会議に参加する際の課題

働き方の進化に伴い、ビジネスの現場では、リモート会議が重要な要素となっています。リモート会議は柔軟性が高く、通勤時間を削減できるなどの利点があることは確かですが、いくつかの課題も持ち上がっています。

## データは語る：

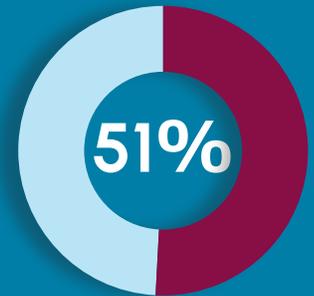
Microsoftが2022年に発表したWork Trend Index<sup>1</sup>によれば、リモートで働く従業員の43%およびハイブリッドワークの従業員の44%が、リモート会議では会議の一員であるような気がしないと回答しています。また、マネージャーの74%が、従業員の環境を改善するための影響力やリソースを持っていないと回答しています。従業員の51%が、翌年には完全にリモートワークに移行したいと回答しているため、状況は悪化していくと考えられます。ここにギャップが現実として存在します。IT部門が対処しなければ、リモートからの参加者と会議室内の参加者間で、公平で質の高い会議を実現することができず、状況はさらに深刻化することになります。

## リモートユーザーの声 - 会議室ソリューションの現状



リモート会議で会議の一員であるような気がしない

翌年には完全にリモートワークに移行したいと思う



従業員の環境改善のための影響力やリソースがない



## IT部門の視点：

IT部門の責任者にとっては課題が2つあります。シームレスな接続を確保することと、リモートワークにおける人的要素に対応することです。テクノロジーを導入しても、ユーザーが本当に満足するかどうかは別問題だということです。

しかし、もしより充実した、疲れを感じさせないリモート会議環境を実現する方法があるとすればどうでしょうか。本書では、これらの課題に対処するためにロジクールSightがどのように役立つかについて紹介します。



<sup>1</sup> - <https://news.microsoft.com/ja-jp/features/220317-great-expectations-making-hybrid-work-work/>



## ロジクールSightのご紹介

ロジクールSightは、ロジクールRally BarまたはRally Bar Miniとシームレスに連携するように設計された、革新的な卓上コンパニオンカメラです。主な目的は、リモートからの参加者に大人数の会議でも対面でやり取りしているかのように、会議室内の参加者の姿を、前方から、または会議室テーブルの中央からの視点（ビュー）で提供し、不十分なリモート会議の体験を参加者全員にとって、より公平なものに変えることです。

## 動的フレーミングと総合的ビュー

Sightの優れた機能の1つは、複数の話者をシームレスにフレーム内に収め、表示できることです。参加者が発言すると、Sightが動的にそれぞれの参加者を入れ換えて表示し、すべての発言者の映像と音声クリアに伝わるようにします。また、会議室前方のカメラが室内の参加者全員の映像をまとめて表示します。この2種類の機能により、リモートからの参加者は個々の話者だけでなく、会議全体の動向を把握することができます。



## 連携と扱いやすいコントロール

今日のハイブリッドワーク環境では、互換性が非常に重要です。ロジクールSightは、その要求に応え、Microsoft Teams、Zoom、Google Meetなどの一般的なビデオ会議プラットフォームと簡単に連携可能です。これによって、ハイブリッドチーム同士を問題なくつなげることができます。また、このデバイスは、わかりやすい会議コントロール機能や音声とビデオのミュート状態を確認できる見やすいインジケータを備えているため、どの参加者にとっても使いやすくなっています。

## 将来を見据えた設計

ロジクールSightは、現時点だけではなく将来を見据えた設計となっています。設置が簡単なだけでなく、高い拡張性も備えています。今後のリリースでさまざまな革新的な機能も搭載される予定です。たとえば、以下のような機能が計画されています。

- **Smart Switching** : Sightは、適応型インテリジェンスを活用してテーブル上に設置されたカメラからの視点、または会議室前方のカメラからの視点のうち、話者の正面に近い姿を捉えている最適なカメラを選択します。この機能によって、参加者間で移動する会話をスムーズに追跡できます。
- **デイジーチェーン接続機能** : より広い会議スペースでは、Sightを2台接続する「デイジーチェーン接続」機能が役立ちます。CAT6以上のケーブルで2台のSightカメラを接続することで、カバー範囲（標準では半径2.3m）を拡大でき、奥行きのあるテーブルやより広い会議室にも対応することができます。
- **マルチストリーム機能** : この機能では、Sightが複数の独立したビデオストリームをMicrosoft TeamsやZoomなどの会議サービスにストリーミングします。

ロジクールSightは単なるカメラではありません。IT部門や、その責任者の進化するニーズに応えるべく作られた、先進的なソリューションです。

## 機能の概要



## 当社が注視している 新たなIT関連の懸念

サステナブルなITは、一般的に「グリーンIT」とも呼ばれますが、IT部門が組織のESG目標達成をより広範囲に支援するための構想を取り込んだ概念として急速に支持を得ています。サステナブルなITを提唱する人々は、組織が環境に負荷をもたらす原因がIT部門にあるとする一方、その負荷を削減するためにはIT部門の協力が必要であることを強く認識しています。企業がビデオ会議ソリューションを検討する際に、最有力候補として浮上したのがロジクールSightです。要求される機能を提供できる他、現代の企業が優先事項とするサステナビリティの基準にも適合しています。

テクノロジーイノベーションのリーダー企業であるロジクールは、一貫してサステナビリティに取り組んでいることを表明しています。たとえば、ロジクールSightがその取り組みに対する証となる製品です。環境に優しい製品製造を目指して、再生プラスチックを使用しています。さらに、ロジクールSightのパッケージは環境に配慮し、FSC認証を受けた森林などの管理された供給源から調達した素材を使用しています。ロジクールSightは、環境への配慮の認定に加えてカーボンニュートラル認定も受けており、カーボンフットプリントを実質ゼロにオフセットしています。

Sightを含めた多数のロジクール製品は、同社のサステナビリティへの取り組みを象徴するものです。再生プラスチックやFSC認証済みパッケージの使用からカーボンオフセットまで広範囲の取り組みにより、環境への影響を最小限にすることを目指しています。このようなイニシアティブには、環境に対する意識の高い消費者にアピールできると同時に、IT部門の購入担当者がスコープ3の温室効果ガス排出量を削減できるようになるという2つの利点があります。ロジクールのサステナビリティへの取り組みと、ロジクールが描くテクノロジーの未来について、詳しくは<https://www.logicool.co.jp/ja-jp/sustainability.html>をご覧ください。

# ロジクールポートフォリオ内でのロジクールSightの位置づけ

ロジクールSightは、ロジクールポートフォリオの中でも特徴的な存在です。ロジクールSightは、Rally BarとRally Bar Miniを補完するように特別に設計された、費用対効果の高い優れたマルチカメラソリューションです。その主なメリットは、大規模な会議スペースで、会議室前方と会議テーブル中央からの視点を直接提供できることにあります。

会議室、特に6名を超える座席がある中～大会議室では、Sightは不可欠なソリューションであると言えます。Sightの考え抜かれたカメラ配置と高度なテクノロジーにより、会議室内の参加者の映像と音声により鮮明になります。その結果、リモートからの参加者は会議室内での議事進行の様子をより明瞭かつリアルに体験できるようになり、会議室内の参加者とリモートからの参加者の間にあるギャップを埋めることができます。

Rallyのポートフォリオ全体が、ロジクール Syncとシームレスに連携する点も見逃せません。Syncはクラウドベースのデバイス管理プラットフォームで、これを使用すると、IT部門によるロジクール会議室デバイスの大規模管理およびモニタリングができるようになります。



## ハイブリッドワーク時代における従来型の会議室構成の課題

### 従来型の長方形のテーブルを設置した大会議室が映像と音声のキャプチャに与える課題

ハイブリッドワークの時代においては、多くの従来型の大会議室構成は、さまざまな課題を抱えています。早急に解決すべき課題となっているのは、大会議室の構成で、従来通りの長方形のテーブルを設置している場合です。この構成では、多くの場合、映像と音声をクリアに捉えることが難しくなります。距離があるために、会議室前方のカメラでは、限界があります。参加者同士が重なるためによく見えず、カメラの映像の大部分がテーブルで占められるということもよく起こります。

また、奥行きのある会議室では、マイクポッドの補助がなければオーディオ品質が低下します。この問題は、参加者の座席に「長テーブル」を使用しているとさらに悪化します。前方のカメラから見ると参加者が重なって姿が見えづらくなり、声も届きづらくなるためです。上座に着席する参加者は重要な人物であることが多いのですが、皮肉なことにカメラから遠くなるため、カメラの画質も音声の品質も低下してしまうのです。

すべての参加者が、位置に関係なく、映像と音声を平等に伝えることができるようにするにはどうすればよいでしょうか？





## これまでの会議室構成では対応できない会議形態の進化

さらに、従来型の会議室では、動的かつインタラクティブなハイブリッドワークの会議に対応するだけの設備がない状況も多く見られます。動き回ることのない人の人物が中心となるような、1対多のプレゼンテーションを行う設備しかない部屋でも、より動的な会議ができるようにする必要があります。参加者が自由に動き回り、積極的にコンテンツを共有し、複数の話者がインタラクティブな会話を交わせるようにしなければなりません。

つまり、多数の会議室を、進化するユースケースに対応できるよう作り変える必要があるのです。すでにビデオ会議対応の設備がある場合でも、おそらく会議室前方にカメラが1台のみ設置され、従来型のオフィス家具を使っていることでしょう。これではリモートからの参加者の会議体験が損なわれます。複数のカメラに対応するシステムは存在しますが、多くの場合、機器だけではなく、会議室の改装や配線にも多額の費用がかかります。また、そのようなシステムの多くは、カメラを個別に管理することができません。

ニーズは進化を続けているため、自動フレーミング、ギャラリービュー、高度なノイズ除去機能などを備えた、より革新的なビデオ/オーディオソリューションへの需要も高まっています。

多額の費用をかけることなく、誰も取り残されない  
柔軟な会議を実現する方法はあるのでしょうか？



## 現在のマルチカメラソリューションの限界

最後のポイントですが、現在市場に出ているマルチカメラソリューションには多くの改善すべき点があります。手に入るシステムの多くは、放送局のパネルのように複雑なコントローラや管理ツールが必要になるか、あるいは低品質なビデオとオーディオ、最低限のインテリジェント機能しか備えていない卓上型会議用カメラかのいずれかです。

IT部門は、役員向けなどの会議室以外にも導入できる、費用対効果の高いソリューションを切実に求めています。そのソリューションは、使いやすく、特殊な専門サポートを別途必要とせず、既存の管理ワークフローとシームレスに連携できる製品であることが求められます。さらに、巨額の投資が必要であってはなりません。

IT部門の責任者が、品質と費用対効果の高いソリューションを見つけ出すにはどうすればよいのでしょうか？



# ロジクールSightは、Rallyの他のポートフォリオとともに、こうした懸念を解消する機能を備えています

筆者は、The Futurum Groupのワークプレイスコラボレーションアナリストとして、ロジクールSightならこれまでに挙げた懸念事項に対応できると考えています。それは、このカメラがRally BarおよびRally Bar Miniとの組み合わせで、以下のような機能を利用できるためです。

## ロジクールSightで公平な会議を実現する

ロジクールSightは、参加者全員の姿や声を比類のない明瞭さで届けることができるように綿密に設計されています。Sightは、会議室中央に設置したカメラとマイクで、高品質なビデオとオーディオを捉えます。これは、特に会議室前方に設置したカメラとの組み合わせで効果を発揮します。

Sightは中～大会議室向けに設計され、集音範囲は2.3mに及びます。テーブルに着いた各参加者の会話や身振りなどを正確に検出し、捉える、インテリジェント機能を備えています。SightをRally BarおよびRally Bar Miniの補助として使用することで、視聴者に会議室前方とテーブル中央からの視点を両方配信し、誰も取り残されない会議体験を実現します。Sightのオーディオとビデオ品質は非常にクリアで、「双方でクリアな画像」「双方でクリアな音声」の原則を真に実現しています。

誰も取り残されない会議体験を実現できるSightがあるのに、他の製品で妥協する必要があるのですか



## 今日の動的な会議に最適なカメラ

動的な会議の分野において、Sightは先駆的なカメラとして際立つ存在です。Sightは先進の「音源方向検知」テクノロジーを利用して、参加者をインテリジェントに検出し、フレーム内に収めます。この機能により、カメラは会議室前方とテーブル上からの視点をシームレスに切り替えて、会議室内の参加者の姿を最良の視点で提供することができます。

多くの競合他社がテーブル中央からの視点を提供することに焦点を絞っているのに対し、Sightは、参加者の関心は会議室全体に及ぶものだという現実を認識した設計になっています。さらに、この卓上型会議用カメラは、複数参加者をフレーム内に収めるインテリジェント機能を備えているため、直近4名までの話者をクローズアップして表示することができます。

会議が日々進化している今、カメラもそれに対応すべき時ではありませんか？



# ITプロフェッショナルのためのシームレスな連携

ロジクールSightは、使いやすいだけでなく、IT部門向けの配慮もなされている製品でもあります。Sightは、IT部門の責任者を念頭に置いて設計されており、Microsoft Teams、Google Meet、Zoomなどの主要なビデオ会議プラットフォームと簡単に連携できます。設置プロセスは効率的で、シンプルで安全なケーブル配線や、同梱された3種類の取り付け用マウントが利用できます。

さらに、SightはSynclにも対応しています。また、Selectを利用すると、IT部門は機器のモニタリングとアップデートをリモートで行え、管理下の検証プロセスとシームレスに連携することができます。

## 既存の資産と連動し、手間のかからないソリューションを求めるITプロフェッショナルには、Sightが最適な選択肢と言えます。



会議室のカバー範囲を拡大



双方でクリアな画像  
デュアル4Kセンサー  
有効画角315°



双方でクリアな音声  
音響ビーム対応の  
無指向性マイクx7



専用のミュートボタン



Rally BarとRally Bar Miniが必要

### ロジクールSIGHT

より公平なビデオ会議を実現するAI搭載卓上型会議用カメラ



動作をキャプチャ



シンプルなインストール



取り付けオプション

<p><b>色</b></p> <p>● グラファイト</p> <p>○ ホワイト</p>	<p><b>認定*</b></p> <p>Microsoft Teams</p> <p>Zoom Certified</p> <p>works with Google Meet</p>	<p><b>互換性</b></p> <p>Sync</p> <p>CollabOS</p> <p>Select</p>	<p><b>サステナビリティ</b></p> <p>認定済みの再生プラスチックと低炭素アルミニウムを使用。FSC認証の紙を使用して、環境に優しいパッケージングを実現。カーボンニュートラル認定。</p>	<p><b>保証</b></p> <p>logicool +1年間 延長保証</p> <p>logicool +3年間 延長保証</p> <p>標準で2年間保証。5年間まで延長可能</p>
---	--	---	--	--

\*一部の認定は申請中



## ロジクールSightに対するThe Futurum Groupの評価

ロジクールは、進化を続けるビデオ会議ソリューションの分野で、革新的な製品により次々と成果を上げています。ロジクールSightをRallyファミリーに取り入れたことが、その方向性を示しています。Sightは、今日のIT部門の責任者を念頭に置いて設計されており、Rallyのポートフォリオを補完するだけでなく、底上げをします。

ハイブリッドワークモデルには解決すべき点が多数あります。特に、動的かつ公平な会議を実現しようとする場合は課題にぶつかります。インテリジェントな機能と最先端のテクノロジーを備えたSightは、全参加者の「姿が見え、声が聞こえる」環境を確保することから、主要なビデオ会議プラットフォームとのシームレスな連携に至るまで、さまざまな課題に正面から対処します。Sightは、今日の会議室に欠かせないツールであると言えます。

また、Sightは今後にも期待できます。そのロードマップには多数の機能強化が予定されており、ハイブリッドワーク環境の進化するニーズにも対応できるでしょう。大会議室でのワークフローやユースケースは多様化し続ける中、Sightはビデオ会議ソリューションの最先端であり続けるために、その状況に応じて新たな機能を提供し続けるでしょう。

時代の一步先を行こうとするIT部門の責任者にとって、ロジクールSightに投資することは、単なる選択に留まりません。それはつながりを強めた、コラボレーションを重視する未来に向けた戦略的行動と言えます。

# logicool

## ロジクールについて

ロジクールは、すべての人が情熱を追求できるよう支援すること、そして人と地球に優しい方法でそれを行うように努めています。またビジネスの成功に貢献し、仕事や創造的活動、ゲーミング、ストリーミングにおいて、人と人をつなげるハードウェアおよびソフトウェアソリューションを開発しています。Logitech Internationalは1981年に創立された、スイスのローザンヌに本社を置く、スイス連邦の株式公開企業であり、スイス証券取引所（SIX : LOGN）とNASDAQ Global Select Market（LOGI）に上場しています。ロジクールとビジネス製品、エンタープライズソリューションについては、

[www.logicool.co.jp/ja-jp/business](http://www.logicool.co.jp/ja-jp/business)、[Logicool for Business](#)ブログ、[@LogitechBiz](#)をご覧ください。



## The Futurum Groupについて

TFG Research [futurumgroup.com](http://futurumgroup.com)社は、ユニファイドコミュニケーションの分野において、コラボレーションおよび会議用の製品とサービスに関する戦略的ガイダンスとインサイトを提供する会社です。当社のグローバルな顧客ベースには、音声、ビデオ、ストリーミング、ウェブコラボレーションソリューションを提供する既存および新規のテクノロジーサプライヤー、サービスプロバイダー、企業ユーザーが含まれます。当社は、市場調査やコンサルティングの提供、テクノロジートレンドや顧客体験に関するカンファレンスの開催、無料の週刊ニュースレターの発行、顧客や業界のイベントでの講演を行っています。



## リサーチャーについて

Craig Durr氏はTFG Research社のシニアアナリストで、専門は会議室コラボレーションテクノロジーおよびソリューションです。市場の規模や予測、製品やサービスの評価、市場動向、およびエンドユーザーと購買担当者の要望などの調査を行っています。製品開発、戦略立案、損益管理、価値提案の策定、およびセキュリティ、SaaS、およびユニファイドコミュニケーションサービスのビジネス開発に関わる責任者として、19年間におよび経験を有しています。Craig氏には、Poly、Dell、Microsoft、IBMでの職務経験があります。

連絡先は以下の通りです。メール：[cdurr@futurumgroup.com](mailto:cdurr@futurumgroup.com)、  
Twitter：[@craigdurr](https://twitter.com/craigdurr)、LinkedIn：<https://www.linkedin.com/in/craigdurr/>